

## 第1回 市役所新庁舎整備検討に関する有識者会議 議事要旨

日 時： 2023年（令和5年）6月29日（木） 午後7時00分～午後9時00分

場 所： 明石市役所本庁舎8階 806会議室

出席者： 【委員】新川委員、大塚委員、本保委員、八幡委員

【その他】設計業務受託者：(株)安井建築設計事務所 南浦氏、粉川氏  
オフィスレイアウト業務受託者：(株)オカムラ 畠田氏

- 資 料：
- ・会議次第
  - ・資料 1 市役所新庁舎整備検討に関する有識者会議（概要）  
市役所新庁舎整備検討に関する有識者会議 設置要綱  
市役所新庁舎整備検討に関する有識者会議 委員名簿
  - ・資料 2 市役所新庁舎整備に向けた検討経過、検討状況
  - ・参考資料 市役所新庁舎建設基本設計
  - ・資料 3 市役所新庁舎 市民ワークショップ（案）
  - ・資料 4 市役所新庁舎 アンケート調査（案）

### 1 開会

### 2 委員紹介

### 3 本会議の運営について

- (1) 本会議の目的、全体スケジュール
  - ・資料1に基づき、事務局より説明
- (2) 会長・副会長の選出
  - ・設置要綱に基づき、会長に新川委員、副会長に大塚委員を選出

### 4 議題

#### (1) これまでの検討経過及び現在の検討状況

- ① 資料2及び参考資料に基づき、事務局より説明
- ② 質疑応答

（委員）

- ・すべての人にやさしい新庁舎ということであれば、明石市が全国に先駆けて制定したインクルーシブ条例を作成した部署にも意見を聞いたかどうか。
- ・有識者へのヒアリングや市民ワークショップについては、基本設計を行う前に市民とのワークショップを行い、その後、有識者会議のプロセスを経るなど、もう少し手前の段階で実施した方が良かったと考える。
- ・ユニバーサルデザインというのは、点検しながら使いやすい施設を作ることが大事である。新庁舎完成後には、是非とも点検プロセスや定期的なアフターワークショップを実施してほしい。
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点から、事前に市職員又は障害のある職員に、現庁舎の使い方や新庁舎の案についてヒアリングしたかどうかは大事なところだと思う。
- ・新庁舎で何を新しく作るのか、どうしてもハード面が前面に出てきているが、働き方や市職員

のホスピタリティマインド等も変わってくると思うので、もう少しソフトの部分、人の部分も入れてほしい。

- ・エネルギーの面では、明石の気候を考えると、太陽光発電を増加させることや窓の部分で発電させる方法もある。費用対効果を踏まえる必要があるが、計画案のZEB Readyにとどまらず、エネルギーが自立できる庁舎というところを目指しても良いのではないかと考えている。

#### (事務局)

- ・職員に対して定期的に意見照会を行っているが、インクルーシブ条例の策定担当部署に個別に意見を聞く機会はこれまでとっていなかった。今後、設計を進めていく中で、連携を図りながら、実施設計を策定していきたい。
- ・意見にあったアフターワークショップ等、完成後も含めてどのように市民の意見を取り入れていくのか、しっかり検討していきたい。
- ・全職員に対する意見照会とあわせて、令和2年度には、障害のある職員に対して個別にヒアリングを実施し、現庁舎の不便なところや新庁舎に期待すること、改善してほしいことをヒアリングしており、設計内容にも反映している。
- ・職員の働き方については、ペーパーレス化への取組として、現状は大型のパソコンが配備されているが、モバイル性を重視した端末に変更する予定としており、また、ペーパーレス会議が行えるよう新庁舎の会議室にはモニター等を設置する予定としている。加えて、新型コロナウイルス感染症の流行を契機にオンライン会議が増えてきていることから、オンライン会議専用のスペースを確保するなど、新庁舎を契機に職員の働き方を変えていきたいと考えている。職員のホスピタリティマインドについては、これまでに延べ700人程度の職員がユニバーサルマナー検定を受けているので、そのような機会を通じながら、来庁者にやさしく接するマインドも植え付けることができたらと考えている。
- ・明石市の庁舎は延床面積20,000㎡超えの庁舎であり、他市で同規模の庁舎を見ると、伊丹市など限られたところがZEB Readyで、それ以外についてはZEB Ready以下となっている。エネルギー削減率については、パブリックコメントで意見があったことから、来庁者駐車場1にも太陽光パネルを増設しており、現在54%のエネルギー削減率を予定している。他市の事例でも60%超えの庁舎はほとんどなく、特に20,000㎡以上の規模となると、消費エネルギーと同等の創エネルギーを確保できない。完全な自給ではないが、他市事例と比較してもエネルギー削減率や自給率はある程度増やせているのではないかと考えている。屋上については、屋上緑化や空調機器スペースを確保していることから、太陽光パネルを置ける面積は限られているが、今後、実施設計の中でさらに太陽光パネルを置ける場所がないか精査していきたい。

#### (委員)

- ・新庁舎は市民に愛される場所であってほしい。また、子どもが育っていく中で記憶に残る場所であってほしいと思う。海外では安心安全の意味からも庁舎が遊び場になっているところがたくさんある。
- ・建てる時は一生懸命作るが、作ったあとの使われ方について、当初のコンセプトが職員に伝達されておらず、貼紙だらけとなり、せっかくの良い新庁舎が活かされていないことが多々ある。作る段階から、職員全員がコンシェルジュとなる気持ちで、愛着と誇りを持てる庁舎にしていかなないとダメだと感じている。

- ・燃料等が高騰していき将来的な予測もつかない中、これまでは売電をして 50 年程度で回収できるかどうかの計算しかしていなかったが、庁舎内でエネルギーを自給自足するくらいの気持ちで、コスト削減の観点から太陽光発電を何kwとするのが妥当か検討した方が良い。
  - ・庁舎内にゴミ箱を置かないゴミゼロ市役所の事例がある。来庁者にオムツなどのゴミが出た場合は職員が預かって捨てる。できるだけゴミを減量化するという意識付けに感動した。環境都市明石として、自然環境に恵まれた場所を活かした方が良いと感じた。
  - ・プロポーザル段階では東側がメインエントランスだったが、市民意見で西側に変更している。市民会館はイベント等の際、建物前に人がたくさん集まることから、市民会館と新庁舎の広場的な要素の連続性やつながりは強い。西側は、明石駅からは近いが、アンダーパスで低く暗いところを上がってくるため、メインエントランスとしては寂しく感じる。メインエントランスを西側にするのであれば、アンダーパスの辺りを開放的な空間にして、抜けがあった方が良いと感じた。
  - ・この場所は津波も液状化の心配もあることから、防災面ではしんどいところがある。基礎底である深度4mの位置に免震層を設置し、深度8mまでを地盤改良して液状化対策としている。N値※が高いため大丈夫だとは思いますが、支持層より下の部分での液状化の心配はないのか。また、この場所で免震層を地下に置くことについて、浸水時の安全性についてわかる範囲で教えてほしい。
- ※ N値：ハンマーを 76±1 cm の高さから落下させ、30cm 掘削するまでにかかった打撃回数。  
この数値が高いほど、強固な地盤だと判断できる。

#### (事務局)

- ・当初は、現計画の来庁者駐車場2の東側部分（現在の議会棟部分）に4層5段の立体駐車場を計画しており、市役所へのアクセス方法の約 50%が自家用車であることから、駐車場から庁舎へのアクセスを考えて東側にメインエントランスを計画していた。しかしながら、パブリックコメントや市民説明会の中で、海への眺望を妨げるのではないかという意見が複数でたこと、また、現在、兵庫県が計画している市役所西側の明石港東外港地区の再開発により、明石駅から東外港地区へ向かう人が新庁舎にも流れてくることから想定されるため、西側にメインエントランスを変更した。

#### (株)安井建築設計事務所

- ・様々な構造形式を比較する中で、庁舎の機能保全の意味からも最良であると判断して免震構造を採用しており、津波の想定であるTP（標高）+3.5m以上の高さまで立ち上がりのコンクリート壁を設置することで、免震層への海水の進入を防ぐ計画としている。また、大雨等での免震層の浸水については、排水ポンプ等を使って常に排水できるようにすることで、免震ゴムの健全性を担保できる計画としている。

#### (委員)

- ・明石らしさの表現としては、議場の屋根やすべてのバルコニーが開いているところと考えると良いか。また、その場合、一体どこからどのように歩いてきたときにそれが見えるのか、誰に見せたいのかを教えてほしい。バルコニーに関しては、メンテナンスバルコニーや省エネの意味からすると斜めにしない方が良いのではないか。四方向すべてにバルコニーが開いているが本当にこれで良いのか疑問である。費用を安くあげるために面積削減等で工夫しているのに、こ

ここで余分なお金がかかっているのではないか。最上階のバルコニーは市民も出られるため、手摺も必要だが、斜めに対して手摺も付けられるが付けにくい。また、議場の屋根の曲線はどこから見える設定で設計しているのか。参考資料の基本設計の P. 6 の立面図では、議場の屋根の曲線はほとんど見えてこないがパースは強調されている。本当の見え方はどうなのか。そこを明石らしさと言うのであれば、歩いてくる人から美しい曲線に見えるようにしてはどうか。明石海峡の美しさを表現するには無理があり、船のような形を出したいのであれば、バルコニーは、今からでも化粧的な三角をつけるくらいに変更してはどうか。そうするとコストもかなり抑えられる。

- ・トイレの配置について、授乳室に近いところに男性用トイレを配置している点が気になる。
- ・窓口業務は今後5年、10年で相当変わってくるのではないかと。証明書を取りに来るような対応が少なくなり、例えば、子育てに関する対応をより充実させるため、小学校以降の不登校などの個別相談が市役所でもできれば望ましい。これは一例だが、今後の窓口業務の変化にどのように対応する考えか。

#### (株)安井建築設計事務所

- ・デザインに関しては、海峡のまち明石として、海を背景にした場所としてふさわしいデザインを行っていきたいと考えている。建物の頂点部分の浮遊感や低層部の透明感でわかりやすくし、バルコニーについても斜めとすることで、より浮遊感と海峡にふさわしいデザインを求めて検討した。斜めに倒した形状にしているがコストには配慮している。また、議場の屋根の曲線については、庁舎近辺の歩行者の目線、車の目線、その他アプローチ動線からの目線を意識して計画している。
- ・トイレの配置について、授乳室と男性トイレが近いという指摘があるが、授乳室やトイレ前に通路と前室を計画し、バッファゾーンをとることで、トイレへの出入りがわかりにくくなり、誰でも使いやすい計画としている。

#### (事務局)

- ・窓口業務の変化は今まさに過渡期であり、マイナンバーカードの普及や、オンライン申請の拡充、住民票等のコンビニ交付の浸透、DXの進展などに伴い、若い世代を中心に市役所に来なくてもネットで手続きができる環境が整うであろうと推測している。ただ一方で、インターネットの利用が難しい高齢者等の相談業務への対応については、社会情勢が複雑化・多様化していく中で、今後も一定数必要なのではないかと思っている。現在、生活保護などの福祉に関する業務は本庁舎敷地外の北庁舎で行っているが、新庁舎整備後も引き続き北庁舎で行う予定にしている。具体的に、今後必要な窓口面積の見通しを立てることは非常に難しいが、例えば将来的にオンライン申請の拡充等により、新庁舎の窓口面積や職員数が減ってきたときに、北庁舎で行っている生活福祉に関する業務を新庁舎に統合することで、効率的な行政サービスにつながるという展開も考えられるため、窓口業務については、デジタル化の進展等も踏まえながら継続して検討していきたい。

#### (委員)

- ・P.37にある市民利用エリアについて、私は市民運営エリアに変更すべきだと思う。議場が使われていない時に市民に使われるというのは本当に素晴らしいと思っているが、多目的スペースは市民活動スペースという風に市民が自発的に運営していくスペースとして考えて良いか。

- ・ 駐車場について、車いす以外の身障者の区別がなく、兵庫県でも障害者の区画が満車で使えないということがある。大阪府等の他府県ではガイドラインを作っている。明石市でもこの点を踏まえて、車いす専用と車いす以外の身障者用の区画を分けて整備した方が良いと思う。車いす用の駐車場は幅 3.5m、その他障害用の駐車場は幅 3.5m未満で良い。屋根付きの設計は良いと思う。また、障害者専用の乗降場を必ず設置してほしい。
- ・ トイレについては、LGBTQ+の時代であることを考える必要がある。よく考えて設計されている部分もあるが、若い男性も個室トイレを使う時代でもあるため、男女の区別のない個室トイレの設置などの調整はできないか。また、バリアフリートイレについては、右利きと左利きそれぞれに対応したトイレを各階に設置するなどの配慮も必要となる。
- ・ 関西国際空港や新国立競技場などで設置しているように、知的障害者や発達障害者のために、クールダウン、カームダウンというスペースを設置するのが世界の潮流となっている。明石市でも試験設置でも良いので設置してほしい。
- ・ 視覚障害者の点字ブロックの考え方は、ガイドヘルプと一緒に来られる場合もあるが、廊下だけでなく、トイレの中などにも点字ブロックを設置し、可能な限り一人で動ける範囲を増やすことが必要。
- ・ 部署の案内については、目的の内容を表記するなど、可能な限り来庁者に寄り添ったものにしてほしい。
- ・ パピオス6階のあかし総合窓口の机は、車いす利用者にとって高さが高い。
- ・ エレベーターは17人乗りでストレッチャー対応が可能なものを検討してほしい。
- ・ ユニバーサルデザインは一般的には7原則だが、「災害の不安なく」「他人の気兼ねなく」「分け隔てなくみんな同じ考え方」「一貫してシームレスに」「公民協の間を分野横断で」「すべての場面で見て聞いて触れて」「マスク社会でもわかる」「ネット社会ですべての情報が得られる」「可能な限り介助者無しの1人で動ける。使える。」を追加することを検討してほしい。
- ・ 新庁舎前の広場（外構・植栽計画）については、匂いを嗅いだり触ったりして楽しむことができるガーデンと、羽田空港や成田空港などに設置しているように、盲導犬ではない犬も連れて来庁できるような犬の排便やえさやりスペースも考えてほしい。
- ・ 多目的スペースの使い方や内装のしつらえなど、完成前の市民参画だけではなく、完成後についても市民活動団体が市庁舎の運営や維持管理に関わってほしい。

#### （事務局）

- ・ 車いすとその他障害者用の駐車場の分けについては、その他障害者用の駐車場は、幅 3.5mも不要なことから、もう少し狭い区画とすることで台数を多く確保できるという考えだと思いが、現庁舎の利用状況や障害当事者の方の意見も踏まえながら、改めて検討したい。障害者専用の乗降場については、新庁舎の南側に車寄せスペースを計画しているが、この中で障害者専用の乗降場を確保できるか、設計会社も含めて検討していきたい。
- ・ トイレについて、性別等に関わらず誰でも使える広めトイレを市民利用の多い1, 2, 6階に設置している。また、これまで障害当事者の方からも、右まひ、左まひそれぞれに対応したトイレを設置してほしいという意見を聞いており、例えば各階2か所に設置する多機能トイレの片方を右まひ用、もう片方を左まひ用にすることやフロアごとに分けるといった設置の仕方もあるため、今後、詳細を検討していきたい。

- ・知的障害者のクールダウン・カームダウンスペースについても、あすく（明石市障害当事者等団体連絡協議会）との意見交換の中で、知的障害者団体から同様の意見を聞いている。基本設計ではスペースを確保できていないが、改めて設置可能か、また、設置する場合はどこにどの程度の面積が必要か検討していきたい。
- ・点字ブロックについても、できるだけ自力で行けるようにしてほしいという意見を視覚障害者団体からお伺いしている。新庁舎内及び新庁舎までの動線について、可能な限り点字ブロックを設置するなど、障害者が自身で迷うことなく行けるよう工夫していきたい。
- ・机、椅子の高さについては、窓口カウンターの一部を昇降式にして、車いす利用者が来た時にはカウンターの高さを上げて、車いすが収まるような工夫も取ってきたい。
- ・ストレッチャー対応のエレベーターについては、新庁舎では合計5台のエレベーターの設置を予定しており、その内1台が30人乗り、もう1台が17人乗り、残りの3台が15人乗りを予定している。ストレッチャー対応については30人乗りのエレベーターで行う予定としている。
- ・ユニバーサルデザインの原則については、現在、一般的な7原則を記載しているが、委員が言われた他の考え方、最新の考え方も踏まえて、今後検討していきたい。
- ・敷地内の植栽や犬を連れてこられた方への配慮については、例えば、市役所に用事がなくても、近隣住民の方が、犬を連れて隣接している大蔵海岸から市役所に向かって散歩してくるような利用シーンがあっても良いと思う。また、市役所に入って食堂や展望テラスで何か飲み物を飲みながら休憩するなどの利用シーンがあっても良いと思う。個人的な思いではあるが、市の木がキンモクセイであることから、植栽計画において一定のエリアにキンモクセイをたくさん植えて、キンモクセイの花の匂いに囲まれるゾーンがあっても良いのではないかと思った。
- ・庁舎内において市民活動団体の方が運営や維持管理に関わることができるかについては、他市の事例を確認しながら可能かどうか検討していきたい。

（委員）

- ・6階の多目的スペースは、表示でいうと市民スペースになっているが、このような場所について、市民が維持管理に参加できるかは大事なところ。アスパア明石内のウィズあかしは、コミュニティ創造協会が中間支援に入り、色々なアイデアで維持管理している良い事例なので、そのような事例も参考にしながら、運営や活用方法について検討してほしい。

（委員）

- ・ベビーカー置場があるとのことだが、ベビーカーを押したまま手続きや移動できる方が便利であることから、できるだけそのまま利用できるように考えてほしい。

（委員）

- ・明石らしさについて、単に明石城や明石海峡大橋のデザインを引用するのではなく、例えば、淡路の瓦、ここで言えば練り土などの自然素材、また、淡路で有名な久住さんの左官壁、明石市の東経135度の軸線を建物の中で材料を変えて床材に使うなど、形質から抽出してくるようなデザインができれば良いと思う。例えば、小田原市にある江之浦測候所は海しか見えない場所にある美術館だが、そこからいくつかの要素を引用して、明石市役所の中に半日くらいは海だけを見て過ごせる場所があったら良いと思う。
- ・新庁舎ができると、絵画や書などの寄付が多くある。寄付の際に、展示場所まで指定されることがあるため、市であらかじめアート計画を考えておいた方が良い。庁舎の中に子どもたちの

絵があっても良いし、6階で子ども展を行うなど、市民美術館の要素を取り入れれば稼働率も上がるのではないか。

- ・ 議場を一般開放することは非常に良いことだが、多目的スペースや食堂との関連性は整理した方が良い。例えば、多目的スペースは災害時の職員の作業スペースとし、食堂は会議室の方に移して、会議室は可動で自由に使える場所にしてはどうか。1階の市民交流スペースやウェルカムゾーンも、単にスペースや会議室を設けるだけでは利用率は上がらないため、子どもの落書き壁の設置や小さな木造の柱と梁のフレームを並べて、それが一つの仕切りになって、会議室と市民交流スペースを構成するなど、学校のプロジェクトルームのような工夫が必要ではないか。食堂については、神戸市役所の上層階のレストランの利用率が上がっていないことも踏まえ、個性のある食を提供することや、展望テラスと多目的スペースを全面開放可能として、中間期には半屋外のような場所で食事ができるなどの連続性がほしい。カフェやモーニング、ワインが飲めるなどの工夫をすれば、個人的には絶対に人が来るだろうという思いがある。
- ・ 奥行きが深い形状のため仕方は無いが、1階の向かい合わせの窓口カウンターは、来庁者にとって両側から見られる怖さがあるため、もう少し視線を和らげ、職員から見られない場所が必要ではないか。エスカレーターについては、上から執務室が覗くことができる状態となり、職員も見られている感覚になることから、エスカレーター周囲の壁やガラスの工夫が必要になる。また、エスカレーターは音もうるさいので落ち着いた執務空間にする配慮も必要となる。
- ・ グリーン庁舎のモデルのような施設となっており、条件が厳しい中で良くまとめているが、裏を返せば空間に抜けがない。全部行き止まりのような廊下になっていることから、できるだけ片方に景色が見えるなど、抜けを作る工夫をしてほしい。
- ・ 車いす置場は設けると思うが、貸出用の車いす置場についても確保した方が良い。
- ・ 窓口赤ちゃんを連れて来た際に、衛生上ベビーベッドに寝かせることを嫌がる市民がいるため、代わりにベビーカーを貸し出す庁舎もあった。そういった運用も検討してみてはどうか。

(委員)

- ・ 案内表示などのサイン計画をどう考えるかは難しいところ。掲示物をたくさん貼ってしまうことでわかりにくくなっている事例がよくある。好事例として、太子町庁舎では貼るスペースを限定し、色々なルールを決めて運用している。掲示物は貼らないといけませんが、貼る場所を限定するのかデジタル化するのか検討は必要となる。

(委員)

- ・ 太子町では掲示物は許可のないものは一切貼らず、また、カウンター下は禁止など、禁止場所をすべて決めた。パンフレットもレターケースにたくさん入っているが市民はどれがどれかわからない。職員が、カウンター下から必要なものを出して渡すサービスを心掛けることが大切ではないか。
- ・ 配置計画について、ランドスケープが最も大事だと思う。新庁舎の位置は、現在の立体駐車場の位置がベストな選択だと思うが、例えば、市民会館と新庁舎をデッキでつなぎ、庁舎2階に入ってきた軸線状に連続性のあるデッキで海まで出ることができれば良いと思う。既に実施設計段階に入っているため、今申し上げた内容は無理だと思うが、全体として将来的にランドスケープをどうしていくのが良いのか、マスターとなる誰かを入れて、庁舎を機にマスターデザイン、グランドデザインを作ることが大事だと思う。なお、暫定的に平面駐車場とする点については、これで良いと考える。

(会長)

- ・ありがとうございます。今後、市民ワークショップやアンケート結果も踏まえて、第3回目の有識者会議で改めてご意見を頂くことになる。本日は、その第一歩として様々なご意見を頂戴した。
- ・難しいが、議論のポイントをまとめると、まず一つ目に、明石らしさをどう表現するのかについて、どんなデザインがどこにどういう風であれば明石らしいのかをしっかりと考えないといけない。
- ・二つ目に、他の施設や駐車場も含めた周辺環境、海との関係もあわせて、どういう利用の仕方を考えていくのか。さらに、将来に向けての発展の可能性について、出来上がった建物をより良く使っていくことや外側の施設との関係性をより良く作っていくことなど、成長する利用の仕方も含めて少し議論が必要ではないか。
- ・三つ目として、ユニバーサルデザインについては、実際の利用の仕方やそこでの個別の運用の仕方も含めて、この施設の中で適切に実現できるように考えていかないといけない。設備機器や動線に至るまで、しっかり検討していかないといけない。
- ・四つ目に、防災については、免震構造ではあるが、地震だけでなく津波や気候変動もあるため、いつ、どのくらいの集中豪雨がやってくるのかもわからない時代にある。そのため、リスク管理については、想定内の議論はできているが、想定外の際にはどうするのかという話もあるのではないか。
- ・最後に、環境問題について、ZEBをどのランクまで目指すのか。2030年、2050年の国の目標が決まっていることから、どこまで先取りできるかが問われている。多少無理をしても先進的な取組を行い、本来の意味でのゼロカーボンにどう近づけるのかが見えてこなければ、多くの方の理解は得られないのではないかと思う。個別具体的な再生可能エネルギーの導入や屋上緑化が良いのかなどの植栽の問題について、改めて意見をたくさんもらい、優れた実施設計ができるように意見をまとめていければと思う。
- ・これらの観点に基づき、本日は委員から多くの意見を頂いた。一つ目の議題については以上とさせていただきます。

## (2) 市民ワークショップについて

- ① 資料3に基づき、事務局より説明
- ② 質疑応答

(委員)

- ・私が参加したことを想定したとき、最後の全体共有及びまとめをどのように活かしてくれるのが最も気になる点である。第3回の有識者会議でシェアをして議論をすることを参加者に明確に言わないといけない。「ワークショップをやりました」だけになってしまうのは良くない。ワークショップの目的と得られたものをどう使うのかをはっきりしておいてほしい。

(事務局)

- ・ワークショップで出た意見の取扱いやどのように設計に反映されたのかは市民も気になるところだと認識している。意見内容や反映結果は、市のホームページや、可能かわからないが広報紙も活用しながら周知するとともに、ワークショップ当日も、全体共有・まとめの中で今後の進め方を説明する際、出た意見を7月28日の第3回の有識者会議で伝えて、どのように反映



するか取りまとめていくことを参加者に説明したいと考えている。

(会長)

- ・市民ワークショップについては、第3回の有識者会議において、意見をどのように実施設計で検討し、採用されないケースも多々あるとは思うが、どう活かされたのか具体的にわかりやすい形で報告してもらうことをお願いしたい。新庁舎が完成してからも市民から色々な意見が出てくると思う。そうした市民と一緒に庁舎をより良く活用していく、場合によっては作り直していく姿勢にも繋げていってほしい。

### (3) アンケート調査について

- ① 資料4に基づき、事務局より説明
- ② 質疑

(委員)

- ・QRコードやFAXの対応が難しい方もいると思うので、チラシに記載があるように、連絡をもらっての個別対応をお願いしたい。一般的にアンケートをするときは、どういう母集団を対象とし、仮説的にどういう回答が返ってくるかを考える。今回は色々な意見を聞くということで良いが、色々な方の回答が聞ける方策を取ってほしい。1週間くらいしか期間がないので、周知をしっかりしてほしい。

(会長)

- ・ウェブだけだと限られた属性の意見しか出てこない可能性もある。様々な立場の方にどのようにアプローチをして回答をもらうのか、新しい庁舎に向けて、全庁的に取り組んでいくぐらいのつもりで努力してもらえればと思う。窓口で調査用紙を持ち込んで書いてもらうなどの対応が、現場にとっては本来業務の妨げになるため、難しいこともよくわかっているが、そうした努力もしてほしいと思う。今回は、色々な意見が出てくることが重要だと思っている。

## 5 その他

## 6 閉会